



南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.11.11 No.48

思いやりのある子

力いっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 指導主事訪問

11月10日(火)、南越地方教育委員会連絡協議会と※鯖江市教育委員会の指導主事の先生が、授業を参観に来られ、代表で授業をした先生方に、いろいろとアドバイスをいただきました。※体育の授業については、越前市と鯖江市から隔年で指導に来られます。毎年、年2回実施されるのですが、今年度はコロナ禍で前期が中止となり、後期の1回だけになりました。いつもとは違った雰囲気の中で授業を受けた子どもたちでしたが、みんな集中して取り組んでいました。



1年2組 道徳



1年1組 国語



5年1組 体育



6年2組 社会



4年1組 道徳

○ 読書月間

本校では、11月2日～30日を読書月間にしています。この期間にいろいろな取組を計画しているのですが、その一つとして、「秋の親子読書」にも取り組んでいただきます。すでに取り組まれた方は、いかがでしたでしょうか。普段、活字に親しむ時間が、大人の方が少ないのが現実なのかもしれません。有意義な時間になれば(なっていれば)幸いです。

【秋の親子読書 おうちの人からひとこと】

- ・上手に読んでくれたので、妹たちも喜んでいました。すごうれしかったです。ありがとう。
- ・大人でも知らないことがたくさん書いてあり、とてもおもしろかった。
- ・集中して読書をしました。本について話をできる機会を持ちたいと思います。
- ・これからもいろんな本を読んでください。感想を話し合ひましょう。
- ・今までは読んであげることはあっても、読んでもらうことは初めてだったので、うれしかったです。また、読んで聞かせてね。
- ・1年生になった主人公の姿が、娘の時を思い出されました。夢一杯、元気に楽しむ光景がすごく懐かしく思いました。
- ・普段、本を読む時間がほとんどないので、久しぶりに本と触れ合う機会を持って、良い時間でした。
- ・親子読書は楽しいね。お父さんが好きな名探偵シリーズをいつも借りてきてくれて、ありがとう。

<ネットより>

「読み聞かせは小学生になってもやめないで」

突然ですが、「読み聞かせ」、続けていますか？ スラスラ文字を読めるようになる小学生以降は、なんとなく読み聞かせを卒業してしまった、という方も多いのでは？ それに対し「まだまだ卒業は早い」とおっしゃるのが、発達心理学のお茶の水大学名誉教授・内田伸子先生です。

3年生くらいまでは文字を追うだけで精一杯

内田先生は、読み聞かせは最低10歳ごろまでは続けて、とおっしゃいます。「小さい子は、文字を追うだけで精一杯。文字を読むことと、共感して深く理解することを同時に行うのは低学年にとってはとても難しいんです。デュアルタスクと言いますが、高齢者と同様に小さな子どもは2つのことを一緒にやるのは苦手なんですね」その2つができるようになってくるのは「10歳」。それを過ぎれば、自分で読みながらも意味がわかるようになるそうです。「でも、それが過ぎてももちろん読み聞かせしていただきたいと思います。私も6年生になるまで娘に読み聞かせをしていましたよ」

「幼児期の絵本体験が豊かで語彙が豊富な子どもや、造形遊び・ブロック遊びが多く指先が器用な子どもはPISA型学力(OECDがはかる学力のこと。ペーパーでの学力ではなく、知識や経験を活用した課題発見とそれを解決する能力)が高いです。でも語彙力が豊かになるのはあくまで結果であって、目的ではありません。親の膝の上や隣で、親の温もりを感じながら一緒に楽しむというのが絵本の世界なんですね。解決も解説もしないで、心をこめて語りかけるように読みましょう。一緒に読む時間を楽しむという姿勢で、楽しんでおしまい方がいいんです。大切なのは「読書」を楽しむことです。

最近の子育てで、YouTubeを見せておけば黙って大人しくなるからと、幼児期からスマホを持たせ、一人で見させておくことがよくあるそうです。そして、その結果、スワイプやスクロールなどとても上手にスマホを操作する小さい孫の姿を見て、祖父母がびっくりすることがあるらしいです。「温もりを感じる」「一緒に楽しむ」という魅力とは、かけ離れているようです。